

第 6 回遊水地保全・再生及び人々の交流・教育・普及啓発検討合同部会  
WG II 「教育・普及のための教材づくり」について【要旨】

1. 第 5 回合同部会 WG では、メンバーより示された教材案を基に、各メンバーより意見をもらい、第 6 回合同部会において修正した教材案を示すこととした。
2. 教材案(配布資料 4)を基に、メンバーで検討した。
  - ・表面に「導入」、裏面に「自然」の構成とした。A 3 裏表で作成するためスペースに限りがある。「導入」では治水、利水についても触れている。
  - ・「導入」では足尾(鉱毒)に触れ、また遊水地が何故造られたのか、という歴史も少し触れた方が良いのでは。
  - ・「鉱毒」という言葉を用いた場合、子どもに理解出来るか。
  - ・小 6 で歴史を学ぶため、あえてこの教材で「鉱毒」に触れることもないのでは。
  - ・遊水地を訪れた子どもの興味は最初に「広い」、次に「何故出来たのか」ときて、最後に「治水、利水」といった機能(役割)に興味に移る。
  - ・子ども向けであれば、字はもっと大きくした方がよい。
  - ・遊水地の位置を示すのは言葉よりも地図の方が判り易い。
  - ・教材にタイトルは無いのか。例えば「遊水地ってどんなところ？」や「探検ブック」などのタイトルではどうか。特に「探検」は子どもの興味を惹く言葉だ。
  - ・「発行者」の記載がないと学校では使えない。連絡先は遊水地湿地資料館で良いのでは。
  - ・裏面の「自然」についての写真の構成など良いと思う。
  - ・「見つけた場所」の書き方が分かりづらい。
  - ・場所を詳しく記したパンフレットを別に持つことを想定している。
  - ・白地図を併せても良い。地図に書き込むことも子どもは喜ぶ。
3. 次回に向けて
  - ・今回の意見を踏まえ、次回(9月開催の第 7 回合同部会)までに案を提示したい。